

フォスタリングチェンジ プログラム実施報告



SOS 子どもの村 JAPAN

a loving home for every child

はじめに	01
プログラムの導入	03
プログラムの概要	05
フォスタリングチェンジ・プログラム in 福岡	07
フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本	11
大分県の状況について	15
里親学習会	16
プログラムに関する里親の評価	17
質問紙結果	19
ファシリテーター フォローアップ研修	21
付録 参加者募集チラシ(例)	23
児童相談所からみたフォスタリングチェンジ・プログラム	26
総括	27



フォスタリングチェンジ・プログラムを日本に

SOS子どもの村JAPAN 坂本 雅子

SOS子どもの村JAPANは、福岡市での児童相談所と市民の協働の里親普及・支援「新しい絆プロジェクト・ファミリーシップふくおか」から生まれ、「里親養育と支援のモデル」をめざして、2010年に「子どもの村福岡」を開村しました。

村では、里親登録した「育親」が、村長を中心に、チームとなって、子どもたちを育てています。また、専門家チームが、子どもの発達支援や心のケアを行い、福岡市の里親、ファミリーホームの専門研修なども行ってきました。

しかし、4年を経過し、育親やスタッフに疲れが見られるようになり、今までの支援や研修にはない「新しい支援」の必要性を痛感することが多くなりました。そのような中で、上鹿渡先生の「子どもの問題行動への理解と対応」を読み、プログラムの一部「アテンディング」を体験し、このプログラムが、求めている「新しい支援」なのではないかと感じました。生活の中で実践し、日々の生活が変わっていくこと

が大きな魅力でした。

上鹿渡先生が日本への導入の準備を進めておられるのを知り、それを支援する「プロジェクト」を2015年、「日本財団」に助成申請しました。そして、ともに進めてくださる仲間として、「企画委員会」を立ち上げ、イギリスからの講師をお招きし、ファシリテーター養成研修を開催、2016年度は、プログラムを試行、この報告書をお届けすることができました。

里親養育では、里親と関係者は、子どもの成長、自立という素晴らしい贈り物をもらいますが、同時に、いくつかの試練も受けます。「養育不調」は、最もつらい試練です。この3年間の試行で、プログラムが里親さんに届くことによって、里親不調を減らし、養育の質が向上すること、また、私たち支援者の支援の質の向上にも結び付くことを実感しました。ご協力いただいた「日本財団」をはじめ、すべての方に心より感謝し、今後のプログラムの普及を願って、ここに報告書をお届けいたします。

長野大学 社会福祉学部社会福祉学科 教授・精神科医 上鹿渡 和宏

里親等委託率が3割を超える自治体が増える中、里親養育の質の向上は喫緊の課題となっています。対応の一つとして包括的で一貫した委託後里親研修が必要と考え、フォスタリングチェンジ・プログラムの導入に取り組んでまいりました。このプログラムは、日々の生活の中で里親が子どもの問題行動に目を奪われるのではなく、子どもの真のニーズを見極めて対応できるようになることを目指すものです。また、里親のこのような対応は子どもとの良好な関係を築く過程でもあり、このような関係こそが里親の下で生活する子どもにとって最初に必要とされるものです。さらに、里親による委託中の子どもの「今」へのかかわりは委託終

了後の子どもの「将来」にも大きな影響を及ぼしうることを思うとき、本プログラムの重要性はより明確になるでしょう。日本で最初のフォスタリングチェンジ・プログラムの実践についてまとめられたこの報告書が、他の地域での実践展開にもつながっていくことを期待しております。



英国からのメッセージ

イギリスモーズレイ病院・フォスタリングチェンジ・プログラム担当 Ms.Kathy Blackeby・Ms.Caroline Bengo

Fostering Changes is a 12 session programme that takes place weekly over a period of three months. It takes into account the impacts of neglect and abuse on children, with an emphasis on how to help carers implement techniques to enable children to identify, acknowledge, express and manage their feelings more effectively. Fostering Changes emphasises the importance of developing secure and positive attachments and ways in which carers can help improve the educational outcomes of children and become involved in their foster children's school life. The programme has an emphasis on effective communication, problem solving skills and aims to provide carers with both knowledge and practical skills to positively impact upon behaviour and security. The Programme is behaviourally based and derives from research into parenting skills, attachment, educational attainment and the academic progression of looked after children who are in foster care. The evidence based programme is underpinned by social learning theory, attachment theory and cognitive-behavioural therapy.

From our qualitative evaluations we have learned that carers value highly the style and ethos of the training and this is as important to

フォスタリングチェンジは12セッションからなる養育者向け研修プログラムです。週に1回1セッションのペースで3か月間実施します。ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、養育者が様々な方略を応用するうえで役に立つ研修であり、子どもたちが自分の感情により効果的に気づき、認め、表現し、対処することができることを目指しています。

このプログラムが強調している点として安全で肯定的なアタッチメントの形成があります。また子どもの学業成績につながる養育者の支援や養育者が学校生活へ関与する方策を持つことを推奨しています。

フォスタリングチェンジは効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、子どもの行動と安全に肯定的な影響を与えるための知識と実践的スキルの両方を養育者に提供することを目的としています。行動を基本とし、ペアレンティングスキル、アタッチメント、学業成績、里親養育に委託された社会的養育の子どもたちの学業面の発達の研究に基づいた内容となっています。エビデンスベースのこのプログラムの支柱となる理論は社会学習理論、アタッチメント理論、認知行動理論です。

質的評価を行った結果、養育者はフォスタリングチェンジ研修のスタイルと精神を高く評価しており、その重要性は学習する内容とスキルに関連することが分かりました。プログラムを通じて、ファシリテーターが肯定的なアプローチのモデルを示し、実際に子どもに実践していきます。そのことが養育者に経験的にスキルが身についた

them as the content and skills they learn. Throughout the programme facilitators model the positive approach that is recommended that the carers use with their young people and they clearly appreciate the nurturing and validating experience that this gives them. The group process is also used to build a trusting forum for carers to try out skills and learn from each other. Each week they practice a new skill with their young people at home and return to share their challenges and successes with the group. Helping each other in this way builds carer confidence in their knowledge and skills providing them with the opportunity to problem solve with each other on a weekly basis.

Foster Carer: 'The course re-opened my eyes and mind to making things better all round for everyone in the home, and continuing to put "forgotten" and new "different" strategies in place, can and does make life better.'

How pleased we are that Fostering Changes is being delivered in Japan.

のか、効果があるのかを明確に計ることを可能とするからです。さらにグループワークを通じて養育者が色々なスキルに挑戦しお互いに学びあう信頼できる場も構築されます。毎週新たなスキルを家庭で子どもに実践し、翌週グループと課題や成功例を共有します。このようにお互いに助けあう互助のグループワークを通じて、養育者は自分の知識とスキルに自信を得ますし、ひいては養育者どうして問題を解決する機会が生まれるのです。

養育者の言葉：このコースは私の目も心も再び開いてくれました。家族の全員にとって物事がうまく進むようになったのです。忘れていた方略と新たな方略を実践し続けることで状況を改善できるし、実際に良くなるのです。

フォスタリングチェンジ研修が日本で実現されていることを私たちは大変喜ばしく思っています。



左から上鹿渡 和宏先生、Ms.Caroline Bengo、Ms.Kathy Blackeby

フォスタリングチェンジ・プログラム導入に向けて

坂本 雅子

背景

2009年、「国連子どもの代替養育に関するガイドライン」が国連総会で採択され、さらに、2016年、改正児童福祉法の第3条に家庭養育優先が明記されたことなどにより、今後、わが国の社会的養育は、里親養育へと大きく進むと思われます。しかし、里親養育が進むとともに、虐待やネグレクトなどを背景に、ケアの必要な子どもを育てる里親への有効な支援が大きな課題となってきます。

フォスタリングチェンジ・プログラムは、英国、ロンドン大学の研究チームによって開発、その効果が実証された、すぐれた「里親トレーニングプログラム」です。

この「フォスタリングチェンジ・プログラム」をわが国に導入・普及することによって、今後、子どもの問題行動に向き合う里親養育の日々の生活を支援し、養育不調を防ぐとともに、支援者の支援の質の向上にも貢献することをめざします。

これまで

- 1) 長野大学 上鹿渡和宏准教授がイギリスにて「フォスタリングチェンジ・プログラムファシリテーター養成研修」を受講。
- 2) 「子どもの問題行動への理解と対応」 上鹿渡和宏准教授著 福村出版より出版。
- 3) 2014年 SOS子どもの村JAPANの里親専門研修で、プログラムの中の「アテンディング」を試行。
- 4) 2015年度 日本財団助成事業「“フォスタリングチェンジ・プログラム”の導入と展開」
- 5) 2016年度 日本財団助成事業「続“フォスタリングチェンジ・プログラム”の導入と展開」



「子どもの問題行動への理解と対応」

2015年度経過

1 企画委員会の開催

(目的) 我が国の里親支援の現状と課題を踏まえ、日本への導入、展開に関する検討、試行、評価を行う。

(委員) 総括責任者 松崎佳子(九州大学大学院 人間環境学研究院教授・臨床心理士)(福岡)

上鹿渡和宏(長野大学 社会福祉学部社会福祉学科准教授・精神科医)(長野)

藤林武史(福岡市子ども総合相談センター所長・精神科医)(福岡)

渡邊守(特定非営利活動法人キーアセット ディレクター)(大阪)

後藤慎司(大分県中央児童相談所所長)→2016年度河野洋子(大分県中央児童相談所参事兼子ども相談支援第二課長)(大分)

河尻恵(福岡学園児童自立支援専門監)(福岡)

平田ルリ子(社会福祉法人清心乳児園園長)(福岡)

天久真理・岩本健(福岡市里親会)

坂本雅子(特定非営利活動法人SOS子どもの村JAPAN 常務理事・小児科医)(福岡)

山本裕子(福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長・社会福祉士)(福岡)

田代多恵子(特定非営利活動法人SOS子どもの村JAPAN 事務局長・保健師)

第1回2015年 5月 9日から第7回2016年10月28日まで7回開催された。





検討内容

- ① フォスタリングチェンジ・プログラムの理解の共有、導入戦略の検討、倫理的配慮の検討
- ② ファシリテーター養成研修の検討、受講者の条件、料金、実施体制
- ③ テキストの翻訳、料金の検討
- ④ ファシリテーター養成研修の振り返り
- ⑤ 2017年度以降の事業展開に向けた方針、今後の計画

まとめ

委員会では、導入に合意したが、里親側の課題としては、多忙な中で12回参加できるか、広域に呼びかけなければ集まらないのではないかなど。実施する側の課題としては、開催場所がない、「職種は?」「費用は?」などが出された。特に、12回コースでなく、日本型の簡易短縮版はできないかなど意見も出た。しかし、養成研修終了後の委員会では、原則として、イギリスのプログラムを守り、週1回、12回コースを福岡と熊本チームで試行することを決定した。また、福岡市里親会の試みは、実施期間の相違等から「学習会」として位置づけることとした。2016年度の委員会では、福岡、熊本から、進捗状況が報告され、また、SOS子どもの村JAPAN主催の東京・九州フォーラムで実施報告をし、全国展開の足がかりとすることを合意した。

2 テキスト翻訳

監訳者：上鹿渡和宏 御園生直美 SOS子どもの村JAPAN

期 間：2015年4月～2017年2月

3 ファシリテーター養成研修の実施

日 程：2016年3月14日～18日(5日間)

参加者：20名(児童相談所および里親支援関係者) オブザーバー12名(企画委員、児童相談所関係者、メディア関係者)

講 師：イギリスモーズレイ病院・フォスタリングチェンジ・プログラム担当 Ms.Kathy Blackeby, Ms.Caroline Bengo

会 場：さわやかトレーニングセンター(福岡市)

内 容：英国で同コースを担当するソーシャルワーカーのお二人を講師として、翻訳テキストを用いて実施。プログラムが里親にとってどのような経験になるのかも体験しながら、修了後、プログラムを実施できるよう、必要な知識や方法を具体的に学んだ。また、12回の中から重要部分を取り上げて、実演、ロールプレイを実施した。期間中は、夜もテキストの予習やホームワーク等で翌日に備え、グループ毎に、熱心に準備が行われ、このなかで、チームができていった。ロールプレイでは、里親に必要な姿勢(リフレクティブ・リスニング、アクティブ・リスニング)や肯定的な注目を基盤としたペアレンティングスキルを学んだが、これらの実践的ワークは、支援者の資質向上にもつながった。最終日には、「思春期の子ども」への対応に生かす特別研修を行った。



- ①本事業の委員である上鹿渡和宏氏が、イギリスですでにプログラムを受講し、講師とのつながりを持っていたため、講師招聘や研修進行をスムーズに行うことができた。
- ②福岡市以外の行政関係者、里親支援機関、里親会、乳児院関係者が企画委員会に参加することにより、日本の里親支援の現状と課題を共有しながら、フォスタリングチェンジ・プログラムの導入についての議論を深めることができた。企画委員は、自身の地域・専門領域から主体的に受講者を募ったため、福岡市、福岡県、熊本、長崎、大分、大阪、東京などの広域から、乳児院・児童養護施設、里親、里親支援機関、児童相談所など幅広い関係者が養成研修に参加することとなった。
- ③養成研修の受講を通じて、福岡、熊本、大分でのプログラム実施を担うチームができた。

フォスタリングチェンジ・プログラムの概要

| 松崎 佳子 |

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基き、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為化比較試験(RCT)が2012年に実施されました。社会的養育下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

プログラムの実施構成は、以下の通りである。

- 週1回3時間、グループでのセッションを12回(約3か月)継続。
- 対象者は、実際に里子を委託されている里親12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気の中で実施される。



プログラム内容は、右図のフラワーパワーに示されているような4つの要素からなっている。

- 養育に最も必要な要素として「温もり」と「観察」が基本となる。
- 以下の①から④の順番でセッションが実施されるよう構成されている。
 - ① 関係性を強化する～褒める、アテンディング(肯定的注目)、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ご褒美表、遊び
 - ② 教育～子どもの学習を支援する、宿題方略、子どもの読書を支援する、学校とコミュニケーションを取る
 - ③ ソーシャルスキル～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、アイ・メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
 - ④ ポジティブ・ディシプリン(肯定的なしつけ)～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト

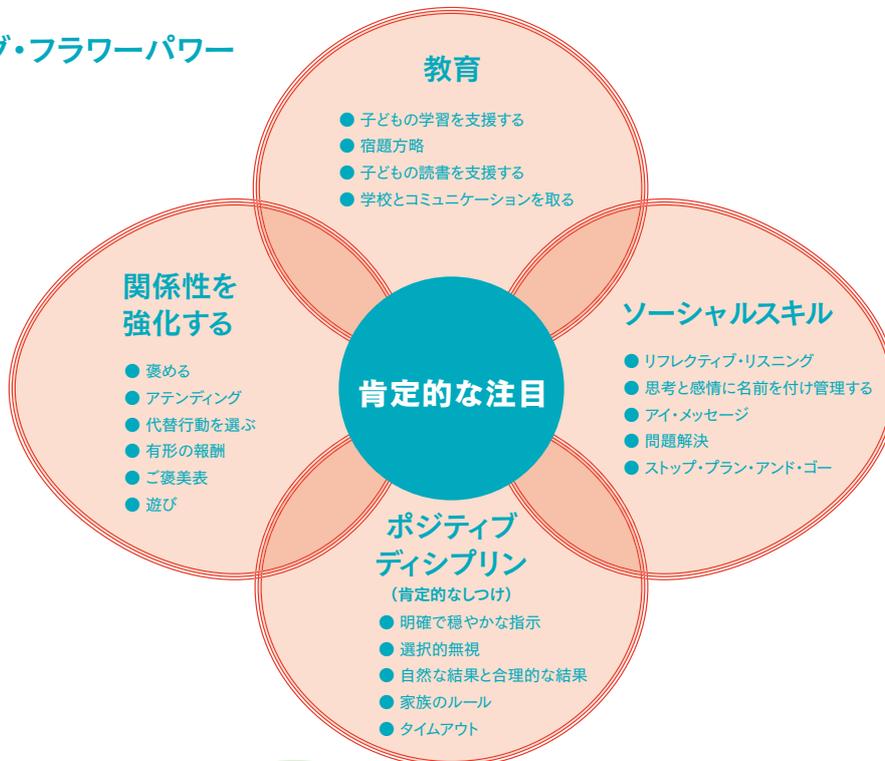
さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し規定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は、基本的に1人の子どもを対象に行動観察、プログラムの演習実践を試行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。

セッション内容

題目	具体的内容
1 グループを創設し、子どもの行動を理解し記録する	グループワークのきまり、子どもの経験、発達に関する理解と問題の再認識、行動を観察し記録する
2 行動への影響：先行する出来事および結果	アタッチメント理論、社会的学習理論、行動のABC分析
3 効果的に褒める	行動の根底にある子どものニーズを考える、肯定的行動を促すために褒める、代替行動を選ぶ
4 肯定的な注目	遊びの利点、アテンディング(肯定的な注目をを用いて共にいること)、描写的コメント
5 コミュニケーション・スキルを使い、子どもが自分の感情を調整できるように支援する	効果的なコミュニケーションのためのスキル向上、リフレクティブ・リスニング、感情に名前をつける
6 子どもの学習を支援する	特別な教育ニーズ、子どもの読書を支援する、思考と感情を管理する：否定的自動思考
7 ご褒美およびご褒美表	子どもが感情を調整するのを支援する、アイ(私)・メッセージでコミュニケーションを取る、ご褒美表を使って肯定的行動を強化する
8 指示を与えることおよび選択的無視	効果的な指示、注目の別の使い方：選択的無視
9 ポジティブ・ディシプリン(肯定的なしつけ)および限界の設定	しつけの必要性、家族のルール、限界を設定する、自然な結果と合理的な結果(子ども自身の学びを支持する)
10 タイムアウトおよび問題解決方略	適切なタイムアウトの実施方法 問題解決のための枠組み：ストップ・プラン・アンド・ゴー
11 エンディングおよび総括	子どものライフストーリー理解を助ける、中等学校への移行、プログラムの復習
12 肯定的変化を認め、自分自身をケアする	養育者自身のケア、自尊感情の重要性

フォスタリング・フラワーパワー



プログラムの実践

3月下旬～4月上旬 実施に向けた協議

福岡では、SOS子どもの村JAPANと福岡市こども総合相談センター(児童相談所)の協働事業としてプログラムを開催しました。福岡県の清心乳児園からも1名が加わり、5名のファシリテーター養成研修修了者がグループを運営していくこととなりました。役割分担としてはファシリテーター(高橋恵、杉村)、ロールプレイや板書を行うスタッフ(高橋三、内山)、スーパーバイザー(松崎)という形です。この時期には備品や会場の手配、参加者募集に関する打ち合わせなどを行いました。



4月中旬 参加者の募集を開始

4月、里親会への案内チラシと児童相談所やSOS子どもの村JAPANからの直接の声かけにより参加者を募りました。5月初旬には、3名の養育里親さんと3名のファミリーホームの方が集まりました。その中には、「育てるのが難しい子どもがいる。子育ての知恵をいただきたい」と養育に難しさを感じている方や、「自己研鑽のため」「よりよい養育に繋げたい」とプログラムに期待を抱かれた方などがおられました。

5月中旬 家庭訪問

質問紙をもとに家庭の状況についてお話を伺いました。里子さんの生活場所を実際に見ることは、その後プログラム展開の際に役立つ貴重な情報となり、また、里親さんへの動機づけとなりました。



5月下旬～8月上旬 プログラムの実施

毎週金曜日 セッション当日の流れ

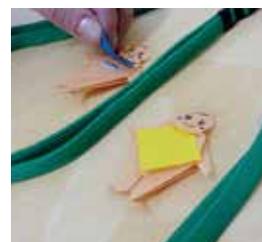
9:00～10:00 準備

10:00～13:00 プログラム実施

13:00～16:00 片付けや次回打ち合わせ

※最終回は夏休みに入ったことを考慮し、セッション11と12を合わせて実施。
(ランチタイムを挟む10:00～15:00)

会場は全セッション、こども総合相談センターの家族療法室をお借りしました。ウェルカムボードや楽しんでもらえるようなグループワークの素材を用意し、里親さんをお迎えました。





セッション
1

グループを創設し、 子どもの行動を理解し記録する

メンバーが初めて一同に会するセッションです。家族紹介やグループの決まりなどのアクティビティを通じ、共に学ぶメンバーとのスタートを切りました。テーマである「行動の観察」を行うためには、前段階として行動を特定することが必要です。子どもの肯定的な行動には“自分でやりたい気持ちが高い”など漠然としたものが挙がりやすく、慣れない作業に頭を悩ませる方もおられました。行動の描写に関するワークを経ると、「宿題をする」といった具体的で明確な行動が挙がりやすくなりました。



学びたいこと

- ものを投げなくなるには？
- 気持ちの引き出し方
- ゆとりの持ち方
- 諦めずに勉強に取り組むには？

セッション
2

行動への影響： 先行する出来事および結果

家庭実践のフィードバックでは早速、「食事中に席を立つ」という子どもの行動を観察した里親さんから、「自分が立った時に子どもも立つことに気づいた!」という目から鱗の報告がなされました。さらにこの回では、アタッチメントや行動のきっかけと報酬について理論的に学びます。叱るなどのマイナスに思える関わりが、子どもにとっては注目を得るという大きな「報酬」であるという内容には、多くの里親さんが着目しておられました。



あなたを里親になろうと決心させたことを1つ挙げてください。

もりもりご飯
食べてくれてありがとう。
作ってよかった～。

セッション
3

効果的に褒める

肯定的方略(褒める、肯定的な注目)によって子どもの行動を促すことの重要性を確認した上で、上手に褒めるスキルを学ぶセッションです。お互いを褒めるエクササイズでは、嬉しそうな表情がみられ、子どもをもっと褒めてあげたいという感想が出ました。褒める機会やそのバラエティが増えるよう、褒め方のフレーズ案も書き出します。テーマにも後押しされてか、グループがより活気づいたのがこの3回目のセッションでした。



ペアで褒め合い笑顔です



フォスタリングチェンジ・プログラム in 福岡

SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子(理事、臨床心理士) 杉村 洋美(臨床心理士)

福岡市こども総合相談センター里親係

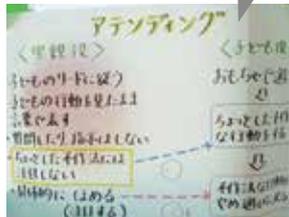
セッション 4

肯定的な注目

子どもの良いところに注目する「アテンディング」を学ぶセッションです。ロールプレイをする初めての回ですが、皆さん熱心に取り組んでおられました。里親役が押し付けがましく関わると、里子役からは「イライラ」し、「里親を無視した」「言われたことと反対のことをした」という感想が挙がりました。反対に、里親役がアテンディングをすると、里子役は「集中」し、「わくわく」して、「何でも話せた」「笑った」と全く異なる感想を挙げておられました。ロールプレイを通じて「日頃子どももこんな風に感じているんだ」という子どもの視点に立った気づきが得られたようでした。



アテンディングのロールプレイ



つつい…
「何つかったの？」
「～してみたら？」

セッション 5

コミュニケーション・スキルを使い、子どもが自分の感情を調整できるように支援する

子どもが自分の感情を受け入れ、理解するのを助けるリスニングスキルを学びます。ある里親さんは、里子役を演じた時の気持ちを「怒りが収まる感じ」と表現されました。効果的な聴き方について理解すると共に、普段のやり方を変える難しさも多く語られました。



スタッフによるロールプレイ
「リフレクティブ・リスニング」

セッション 6

子どもの学習を支援する

社会的養育下の子どもの学業に関する現状に触れた上で、彼らの学習を支えるための具体的な方法を学びます。また、ストレスの多い日々の中で生じやすい「いつも上手くいかない」「どうせ○○」のような「否定的自動思考」についても知り、建設的に考えるための「思考を変える」練習を行いました。

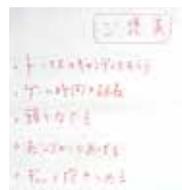


“フレンドリーな読書”
のロールプレイ

セッション 7

ご褒美およびご褒美表

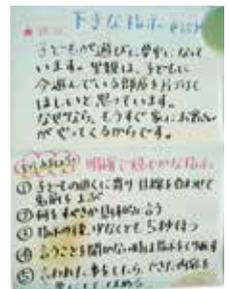
望ましい行動をより起こりやすくするための「ご褒美」のセッションです。翌週には、好きなキャラクターなどがあしらわれた素敵なお褒美表がお披露目されました。



子どもが喜ぶご褒美を
発表



タイムアウトの
ロールプレイ



要点をまとめた
フリップチャート

セッション 8

指示を与えることおよび 選択的無視

「明確で穏やかな指示」のスキルは、家庭での実践後の反響が大きく、これまでは自分の指示がわかりにくかったのだろうと話す里親さんもおられました。また、ちょっとした問題行動に対して“注目をしない”というしつけの方略についても触れます。「ちょっとした無作法な行為を無視することで楽になりそう」といった感想が挙がりました。



セッション
9

ポジティブ・ディシプリン (肯定的なしつけ)および限界の設定

明確で肯定的な「家族のルール」を伝えること、「～したら〇〇になります」といった限界を設定することを学ぶセッションです。「何度も伝えてきたつもりだったが、覚えて言葉にしないといけないんだ」などと里親さんがそれぞれに気づきの多いセッションでした。

セッション
10

タイムアウトおよび 問題解決方略

それまでの方略で対処できることが増え、タイムアウトを適用するほどの問題行動は今のところないという里親さんが中心でした。子どもが自分でよりよい決定をするための「ストップ・プラン・アンド・ゴー」はわかりやすく、すぐに試してみたいと好評でした。



プログラム後 フォローアップセッション

家庭での実践を支えるため、スキル復習と近況報告を行う会を9月と12月に開催しました。ある里親さんからは、「ロールプレイそっくりの出来事が起こり、練習を思い返して対応し、子どもが自分の気持ちを話すことができた」という嬉しい報告がありました。現在3回目の開催も予定しています。

おわりに

週1回、3か月間というプログラム構造については、「気持ちを維持できた」「1週間実践し、振り返りという形がとてもよかった」と非常に好評を得ました。プログラムの中では「きっかけ」「選択的無視」などの言葉の定義を学ぶため、話を共有しやすくなることや、建設的に考えやすくなることも特徴とされました。里親さんは、学んだ方略が自分と子どもにどう役立つのかを考え、実践し、たくさんの変化を聞かせてくださいました。

セッション
11

エンディングおよび総括

子どもが里親と過ごした時間をどのように保存していくかについて考えます。また、里親さん自身もプログラム終了を迎えるにあたり、学んだスキルを自分で使っていくために復習をします。



思い出箱の例

セッション
12

肯定的変化を認め、 自分自身をケアする

里親さんが自信をもって家庭で養育するためのセッションです。たくさんの方略を身に着けたことを再認識し、リラクゼーションや否定的自動思考のおさらい等で自分自身のストレスマネジメントにも目を向けます。最後は、6人の里親さん全員が揃って修了証を手にする事ができました。



出席率
97%

参加者の声

- 「こういうことがしたいんだな～」という観察の目が養われた。
- 子どもがかわいいと思えるようになった。
- このプログラムがなかったら、この子はどうなっていたんだろう。フォスタリングチェンジばんざい。
- 痾癪はなくなっていない。でも回数が減り、自分も耐えられるレベルになった。

フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本

フォスタリングチェンジTeamくまもと 山川 浩徳（児童養護施設シオン園 里親ソーシャルワーカー）

プログラムとの出会いから実践まで

プログラムとの出会い

「このフォスタリングチェンジ・プログラムは里親養育の難しさを軽減できる素敵なプログラムで、子どもの村でも実際に勉強をして今後取り組んでいきたいと思っています。」

私とフォスタリングチェンジ・プログラムとの出会いは2015年6月にSOS子どもの村JAPANが開催をされた公開研修でのことでした。冒頭の言葉は、理事の坂本雅子さんが研修の最後に言われた言葉です。このプログラムって一体どういうものなのか？という興味から私は「子どもの問題行動への理解と対応～里親のためのフォスタリングチェンジ・ハンドブック～」をすぐに購入しました。実際に読み、内容を理解するなかで私の興味は実際のトレーニングプロ

グラムへ。その年の11月に九州大学の松崎先生を企画者として、当時、大分県中央児童相談所所長だった後藤さん、SOS子どもの村JAPANの坂本さんと一緒に日本子ども虐待防止学会新潟学術集会にて分科会を開催する機会にいただきました。その分科会の打ち合わせの時間に、今回の事業の企画委員だった上記3名の方より、「来年の3月に行うファシリテーター養成研修に熊本からどうですか？」というお誘いをいただきました。



ファシリテーター

プログラム実施のためにはファシリテーターが最低2名必要ということで、私自身の実践は、もう1名の養成研修参加者を探すということからスタートしました。実際にこのプログラムを熊本で開催するために、児童相談所の里親担当者や里親研修の委託を受けているNPO法人の方に研修参加について相談を行いました。養成研修の開催が3月と年度末であるために少しだけ難航しましたが、最終的にNPO法人優里の会理事長である八谷さんに参加の承諾をいただき、晴れて養成研修に参加することができ、ファシ

リテーターとしての資格をいただくことができました。（熊本からはもう1名養成研修に参加し、実質3名のファシリテーターがいます）



開催準備

4月に入り、このプログラムを熊本県でどのように展開していけるのか、とファシリテーター3人で考えていたその矢先に、平成28年熊本地震が発生し、県内の多くの地域が

被害を受けました。ファシリテーターの一人は自宅が全壊、もう一人の勤務先の施設ではガス、水道の供給が止まっている。私も里親ソーシャルワーカーとして毎日、里親家庭への家庭訪問を朝から晩まで。このような状況で、さてどうしたものか、と考えはしましたが、そんな状況であっても私た



ちファシリテーターに迷いはなく、本震10日後の4月26日より準備を開始、少しずつプログラム開催のために必要だと思われることの検討を始めました。2週に一度、全員で集まり、1セッション毎に担当部分の確認、伝える内容の精査、そして時間配分について納得のいくまで議論を行いました。並行して、実施するための会場探し（地震による被害

のため候補として考えていた建物が使用不能に)や、開催にあたっての周知、参加者の募集などの検討を行っています。



フォスタリングチェンジ Teamくまもと

また、同時期に熊本県子ども家庭福祉課にも、事業説明を行っています。私たちファシリテーター3人は、乳児院施設長、NPO法人理事長、里親ソーシャルワーカーといった民間の立場の人間です。公的な機関が関わらないなか、私たちだけで里親に向けての公的な養育を担うためのトレーニングプログラムを実施してよいのか、他にも各家庭の養育や、里親自身の育ち、養育観といったプライベートでデリケートな部分を扱うこと、不適切な養育を発見した場合の報告義務についてなど、このプログラムを実施することにつ

いてリスクがあるのではといった不安があったからです。その時に子ども家庭福祉課長より任意団体の設立のご提案をいただき、私たちは「フォスタリングチェンジTeamくまもと」を立ち上げました。この団体が、熊本県、熊本市といった公的機関からの後援をいただくことにより、公的なトレーニングプログラムとしてのお墨付きをいただくことができると考えたわけです（今年度は熊本県、熊本市、熊本県里親協議会より後援を得ました）。その他にも、プログラム運営のための資金に関する不安についても、任意団体として、様々な助成を受けられる可能性を今後は検討できればと思っています。

デモンストレーション

最後に参加者を募る試みとして、児童相談所、里親協議会の理解のもと里親協議会総会にて、時間（30分）をいただき、プログラムのデモンストレーションを行いました。ロールプレイを含むセッション4の一部分を実際に体験していただきました。その反応は良好で、右記のような感想をいただいています。

そして2016年9月13日、参加者6名とファシリテーター3名により、熊本県におけるフォスタリングチェンジ・プログラムの実践がよいよスタートすることになります。

参加者の感想

- このプログラムにぜひ参加したいと思った。
- 概要がわかりとても興味がわきました。
実施日が平日の昼間なので参加できず残念です。
- 詳しく話を聴いて勉強したいと思った。
日々悩んでいるので…
- もっとお話が聴きたいです。大変有意義な時間でした。
- 参加したいが、未委託なので受けられないのが残念です。
- あまりにも短時間でした。このプログラムを皆さんに伝えることは大切だと感じます。

フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本

フォスタリングチェンジTeamくまもと 山川 浩徳（児童養護施設シオン園 里親ソーシャルワーカー）

プログラムの実践

参加者の紹介

ご参加いただいたのは以下の4組6名の里親、ファミリーホームの養育者の方々です。

- 特別養子縁組でお子さんを一人育てられ、現在は養育里親として活躍中のベテラン里親
- ファミリーホームの養育者
- 2組の特別養子縁組希望里親のご夫婦

プログラム開催前の家庭訪問

プログラムの開始前には、里親さんそれぞれに家庭訪問を行っています。事前の訪問はプログラムで設定されているもので、里親は開催前からファシリテーターに支援されていると感じることができ、また、ファシリテーターがどんな人物かを事前に知ることができ、自らが抱える「子どもへの困り感」「養育への不安感」が共有されることで、安心してプログラムに参加できるとのことでした。

セッションの内容

セッションは、各回共通して「オープニング・ラウンド」「家庭での実践のフィードバック」「休憩」「知識の提供」「家庭での実践」「クロージング・ラウンド」といった構成で進んでいきます。参加者の気持ちを和ませ、また、やる気を喚起する部分があり、BGMや気分転換のゲーム、お茶やお菓子といった配慮など、これまでの研修にはなかった斬新な内容で、参加者からは「リラックスして参加することができた」と好評でした。

次にセッションの内容ですが、ファシリテーターからの「知識の提供」、「ロールプレイ」「エクササイズ」などのアクティビティ、前回の学びについて家庭で実践したことをシェアしあう「フィードバック」により構成されています。

まず「知識の提供」で、「レジリエンス」「社会的学習理論」「きっかけと報酬」など、このプログラムで重要な内容をファ

シリテーターがパワーポイントを使用し伝えます。ここで得た知識を土台として、アクティビティへ。アクティビティでは意見の



発表や討論、ロールプレイを行います。その際、様々な道具を活用します。参加者の発表を書きとめ掲示するフリップチャートや、ロールプレイでの小道具（絵本、積木、写真など）といったものです。また、ロールプレイや発表への積極的な参加に対してファシリテーターからは「ご褒美のシール」をお渡ししました。一見、小さな報酬に感じられますが、自分の努力を評価してもらえることは嬉しいものです。このご褒美シールを通して褒められる大切さを体感していただくといった狙いもあります。1枚の小さなシールであっても参加者の励みになれば私たちファシリテーターも様々なシールを準備しました。このように小道具の力も借りなが





ら、歓声や笑顔の中での和気あいあいとした雰囲気に含まれプログラムは進んでいきます。そして、セッションで学んだことを持ち帰り実際の養育の場で実践し、次のセッション

の始めにグループでシェアする「フィードバック」までの3つが1セットといった内容となっています。

ファシリテーターの役割

このプログラムは、参加者が意欲的に、リラックスして参加すること、自分の力を高め、日頃の悩みや思いを出し合い、そして共有し、長い時間ひとつのグループとして学ぶことのメリットを最大限に活かせるよう設計されているものと思います。

私がファシリテーター養成研修を受講した時に感じたことですが、フォスタリングチェンジ・プログラムは一般的な研修のように講師が受講者に教え、指導するといったものではありません。私たちは指導者、トレーナーではなくファシリテーターです。そこで、このプログラムにおけるファシリテーターが担う役割について考えてみました。

『ナビゲート ビジネス基本用語集の解説』によると、「ファシリテーターとは、ファシリテーションを専門的に担

当する人のことをいう。ファシリテーター自身は集団活動そのものに参加せず、あくまで中立的な立場から活動の支援を行うようにする。（中略）これにより、利害から離れた客観的な立場から適切なサポートを行い、集団のメンバーに主体性を持たせることができるとされる。『調整役』『促進者』などと訳される。」とされています。



このプログラムでは、参加者の主体性を引き出し、経験を共有しながら、共通した問題の解決を試みるグループを適切にサポートし、養育者の新たな挑戦を支持する環境を提供することこそ、私たちファシリテーターの役割と言えるのではないのでしょうか。

熊本での実践の成果

このフォスタリングチェンジ・プログラムに一貫して流れていると感じられたものは、参加者のモチベーションを高め、日々の養育に励んでいる里親をケアする、そして温かな雰囲気を作り楽しく参加をするための工夫です。そこで、「フォスタリングチェンジTeamくまもと」では、ファシリテーター自身が笑顔と明るさと和やかさを大切に、里親さんに接することを心がけました。参加者からは「ロールプレイのクオリティーが高く、楽しみながら参加できた」「ファシリテーターは明るく楽しく、臨機応変な対応も大変良かった」といった感想をいただきました。また、「子どもとの関係性が親密になり、子どもが感情を少しずつ表出するようになってきた」「子どもの笑顔が

増えた」といった子どもの変化や、「(子どもの)問題についての捉え方が変わった」「困難と思うことも対処方法を学ぶことで困難ではなくなると私自身の思考も変化させることができた」といった養育者自身の成長も感想としていただきました。

開催期間中、熊本地震の余震や台風上陸など様々なことがありましたが、3名の方が12セッションすべてに参加され、残りの方も11セッション、9セッションを受講されました。そして最後には参加者全員に修了証書をお渡しすることができました。3ヵ月間という長い期間でしたが参加された皆様、本当にありがとうございました。



大分県の状況について

| 坪居 潤 |

プログラム実施に向けた検討

- 大分県内で実施できる可能性を探るため、現在受託中の養育里親にフォスタリングチェンジ・プログラムに対する聴き取り等を行いました。
- フォスタリングチェンジ・プログラムへの興味を持った里親は20組以上いましたが、実際に全12回のプログラムに参加可能と答えた里親はいませんでした。
- 主な理由としては、
 - ①回数が多すぎる
 - ②平日は仕事があり参加できない
 - ③開催会場(大分県中央児童相談所)までが遠いでした。
- 大分県の養育里親の実状として、大分県中央児童相談所(大分市)から有料高速道路を利用しても1時間以上かかる地域に居住されている方が多いことがあります。
- 共働きの里親も多く、平日の研修会に参加できる方は少ないため、大分県中央児童相談所が開催している研修会は全て土日に行っています。

体験版プログラム

- 大分県中央児童相談所では里親の資質向上を目的としたテーマ別研修会を年に4回開催していますが、11月の研修会にてプログラムの一部を体験してもらう内容を実施しました。

研修会の内容

日 時：平成28年11月19日(土)10:00~16:00

演 題：「イギリスの<フォスタリングチェンジ・プログラム>を体験!

~子どもとの関係を改善する里親のためのトレーニングプログラム~」

ファシリテーター：九州大学大学院教授 松崎佳子さん

NPO法人SOS子どもの村JAPAN 杉村洋美さん

参加者：40名(里親23 FH1 施設職員8 児童相談所8)

- 里親からは「アテンディングを早速実践したい」「ロールプレイをして子どもの気持ちが変わった」「ファシリテーターの語りがやさしくわかりやすかった」等の反応があり、好評でした。
- 「カタカナ用語や難しい単語が多かった」「ロールプレイが多く、やりづらかった」等の意見もありました。
- 平成29年度のプログラム実施に向けて検討しているところです。

里親会学習会

| 天久 真理 山形 裕子 |

フォスタリングチェンジ・プログラムは二人のファシリテーターで実施される里親支援プログラムです。その中で我々のチームは、ファシリテーターが共に里親なので、ピアサポートという観点から言えば功を奏し、初回からクラスの雰囲気は和気藹々とし、毎回、活発な意見が出され、日々抱え込んでおられる養育上の問題を親身になって聞くことができました。

しかし、里親であるが故に事前準備に十分に時間を費やすことができないと想定し、毎週実施すべきところを、月2回としました。そのことにより、全12セッション終了に6ヶ月を要しましたが、受講生8人に強い絆が芽生え、セッション11の「振り返りましょう」という学習場面では、取りあげたT家のK君を全員が我が子のように捉え、活発な意見交換や新たな養育方略が提示され、この学習は受講生に最も印象に残ったようでした。

また、ファシリテーターは、本番に追われることなく、隔週をセッション準備に当て、毎回4時間以上も事前学習、リハーサルに費やすことができました。この準備にも、セッション時、補助を依頼していた里親支援専門相談員に参加してもらったことは、今後の里親支援に繋がっていくと感じています。

このプログラムの特色として、毎回、学習した方略を家庭で実践し、そのフィードバックを次回のセッションで仲間と行うことになっていますが、後半になると受講者に積極性が見られ、また、子どもに感情的な落ち着きが見られると、課題以外の方略に取り組む人もありました。

また、プログラム開始前に家庭訪問を実施するのが、このプログラムの特色と言えます。しかし、この点においても、面識ある受講者が多く、家族構成等を周知していたので最低限の確認に留めて簡略化しましたが、セッションが進むにつれて、対象児と受講者との関係性や家庭背景等、セッション内では時間的に把握できないことも多々ありましたので、セッション6を終了した時点で、ひと月の夏休みを利用して、急遽、家庭訪問を実施しました。なお、家庭訪問では、スタート前の実施とは異なり、より詳しく、また、今までに学んだスキルの実践について具体的に深く話し合うことができました。

学習会終了後、3ヶ月が経過し、受講者が切望していたクラス会を3月1日に開催することが決まり、その日を楽しみに待っているところです。



プログラムに関する里親の評価

(福岡・熊本の参加者 n=12)

最も役に立つと思った考えやスキル(1人5つ回答)

スキル	回答数
● 選択的無視	8名
● 代替行動を選ぶ ● 褒める ● 明確で穏やかな指示	5名
● タイムアウト ● ストップ・プラン・アンド・ゴー	4名
● 行動のABC分析 ● アテンディング ● 感情に名前を付ける ● リフレクティブ・リスニング ● 有形の報酬	3名
● 自然な結果と合理的な結果	2名
● 子どもを観察すること ● アイ・メッセージ ● アサーティブなコミュニケーション ● 思考と感情に名前をつけ管理する ● ご褒美表 ● 否定的自動思考 ● ポジティブ・ディシプリン	1名

将来、これらのスキルを別の子どもに使うことについて

- はい、目に浮かぶ行動そして効果も目に見える感じで、早速使いたいと思っています。
- 今も対応した後(もしくはしている時)にハッと気づくので、直前で思い出した時には理論的に考えながらできると思うので、思いついた時には自信をもってできる。
- 忘れてしまわないように常に気にしながら活用したいと思います。
- 自信があるとは言えないが、使いたいと思う。

子どもの行動の変化(5段階評価 1:ひどくなった⇔5:大変よくなった)

福岡 … 対象児:平均3.7点/5点 きょうだい児:平均3.6点/5点
熊本 … 対象児:平均3.8点/5点 きょうだい児:平均4.0点/5点

関係性

- 試し行動がなくなった ● 距離が縮まった ● 笑顔が増えた ● よく同じ空間にいる
- 自分の意見や気持ちを言えるようになった ● 目を合わせてくれるようになった
- 感情を少しずつ表出するようになった

感情調整

- 癇癢が減った ● 暴力が減った ● 噛まない ● 暴言が減った ● 切り替えが早くなった
- ワーワー抵抗することが少なくなった

行動

- ゆっくりドアを閉められるようになった ● 注意された時に嫌と言うことが少なくなった
- 手を繋いで歩けるようになった ● 食事中にスプーンを投げなくなった

その他

- 少し先を見通せるようになった ● 頼み事ができる様になった ● 挨拶ができるようになった
- 学力が向上した ● 様々なことに挑戦し、出来ることが増えた



里親と里子の関係性の変化(5段階評価 1:とても悪い⇔5:とても良い)

福 岡 … 平均3.8点/5点

熊 本 … 平均4.3点/5点

- 私自身が少し時間を待てるようになったので子どもの話に耳を傾けることができる。
- どんなきっかけで何が起るか気づくことができ、褒める機会が増え、気持ちに寄り添える感じがわかる。
- 距離感が縮まった(3名)。
- 子どもとの関係がより親密になった。
- 関係性が親密になり、子どもが感情を少しずつ表出するようになってきた。

里親としての感じ方への影響

内省

- 自分がいかに行き当たりばったりの支援をしていたかがわかった。
- 子どもの思いに気づくことがたくさんあった。今まで一人よがりだった気がする。

変化

- 「問題」についての捉え方が変わった。
- 子どもに対する見方、感じ方を変え、困難と思うことも対処方法を学ぶことで、困難ではなくなると私自身の思考も変化させた。

自信

- ちょっとしたテクニックを用いて普段の言動を変えることで、里子と私自身を自然な楽な関係にできると思う。
- 自信がついた。
- 迷いが少しとれた気がする。

プログラムを終えて 参加した里親さんの感想文

Aさん

いろいろな問題行動を起こす里子に、愛情を持って月日を過ごしあきらめずに接していれば必ず解決してくれると、もがいていた。そんな苦しい日々を過ごしていた中、フォスタリングチェンジの研修を知りとにかくなんでも受けてみることにした。問題行動の多い里子と平凡な日常を過ごす為には自分の育児経験の過信と体当たりの愛情では多くの労力と年月を要すると思った。研修では問題行動について多角的な対応方法を学ぶことができ、角度を変えて観察することや、癖になっている言葉かけをほんの少し意識して変えるだけで、ダイレクトに里子の行動をいい方向に導けるのを実感できた。特にタイムアウト、ストップ・プラン・アンド・ゴーは効果的で、癇癢や暴力、破壊にまで及んでいた行動を抑えることが出来た。里子は納得できていない様子はまだまだあるが、何度も同じ経験を繰り返すことにより自分の感情をコントロールでき落ち着いた自分の生活を取り戻せるようになることを期待している。フォスタリングチェンジは問題行動を起こす里子とそれに疲弊する里親との関係を解決する一番の近道的手段である。

Bさん

プログラムに急遽参加させて頂き、ありがとうございました。ファシリテーターの皆様や、今回参加した皆様のおかげで欠席もせず最後までなんとか参加できて感謝しております。受講内容に関しては、初めて聞くことばかりで納得、理解するのが難しいことはありましたが、これからの里子との関係作りテキストを見直しながら実践していきたいと思えます。今後とも、相談、アドバイスをよろしくお願いたします。

Cさん

このプログラムに参加させて頂き、初めにフラワーパワーを見た時に正に根っこよね!!と思いました。又中心に肯定的とあるのを見て子ども達を見るとまだ短期的な子どもは、なかなか自信が持てない部分を感じます。特に行動のABC分析は、私が課題として関わった彼にはとても勉強になりました。常に思っている事ではあるのですが、改めて取り組むとまだまだきっかけの見落としを感じましたので今も心がけて続いているところで。又肯定的な言葉を穏やかな状態で語り、まず褒めてから心がけていきます。研修で1週間持ち帰り、実践がとても楽しみながらも意味深い事を学びました。ありがとうございました。

質問紙の結果

参加した里親には、プログラム開始前と終了後に質問紙への回答に協力いただいた。以下に挙げる6つの尺度は、付属資料としてプログラムに含まれているものである。これらの尺度に関して、対象の子どもについて記入をお願いした。今回は福岡と熊本を合わせた計12名の里親さんの回答について、プログラム前後での比較検討を行った。なお、対象の里子以外にも委託中の子どもがいる6名の里親には、きょうだい児についても一部の尺度へ回答をお願いした。

質問紙の内容

アラバマ・ペアレンティング質問票

The Alabama Parenting Questionnaire:APQ

子どもの問題行動に関連して、ペアレンティング・スタイルの肯定的な面と否定的な面を実践面から判別する尺度。ペアレンティングの実践を4つの分野(肯定的なペアレンティング、一貫性のないしつけ、行き届かない監督、関与)に分けている。

子どもの強さと困難さアンケート

The Strength and Difficulties Questionnaire:SDQ

子どもおよび思春期における適応と精神病理学についての尺度。情緒的症狀、行動上の問題、多動性—不注意、友達関係の問題、向社会的行動の5つの尺度から構成されている。

里親の自己効力感についての質問紙

The Carer Efficacy Questionnaire:CEQ

里親が、委託されている子どもの養育について、どれほど良く対処できているか、どれほど子どもの生活に肯定的変化をもたらしていると感じているかをアセスメントする質問紙。

アタッチメントの質に関する質問紙

The Quality of Attachment Questionnaire:QUARQ

子どもが愛情を示し受け入れるか、養育者を信頼しているか、ストレスを与えられた際に助けを求められるかといったことを評価する。

里親のコーピング方略尺度

The Carer's Coping Strategies:CCS

褒めることや一貫したしつけなどの本コースで紹介された原則を、里親が吸収できているか、そして実践できているかどうかを調査するもの。

ビジュアル・アナログ尺度

A Visual Analogue Scale:VAS

里親が気がかりな子どもの行動を3つ挙げ、それぞれについてどれほど心配しているかを線分上に示すもの(図1参照)。



(図1) ビジュアル・アナログ尺度の回答例)

※きょうだい児に関しては、SDQとVASのみ回答していただいた。



プログラムの対象とした子どもについて

各尺度を従属変数、測定時期を独立変数として、対応のあるt検定を行った。その結果、アタッチメントに関する尺度 (QUARQ) がプログラム後に有意に上昇していること、気がかりな里子の行動に関する尺度 (VAS) が有意傾向ではあるもののプログラム後に低下していることが示された (表1)。さらに、プログラム前の段階では、12名中4名の里親が、対象の里子を支援ニーズの高い子どもであると認識していたが、プログラム後には2名へと減少した (表2)。

表1 プログラム前後における各尺度合計点の比較

尺度	n	測定時期	平均	標準偏差	t値
APQ	9	プログラム前	31.44	4.13	-1.59
		プログラム後	34.67	5.29	
SDQ	10	プログラム前	18.40	4.17	.83
		プログラム後	17.30	5.81	
CEQ	11	プログラム前	38.36	6.76	-.69
		プログラム後	39.64	4.88	
QUARQ	10	プログラム前	38.30	16.71	-2.29*
		プログラム後	42.30	15.18	
CCS	11	プログラム前	51.00	8.38	.29
		プログラム後	50.27	12.85	
VAS	10	プログラム前	21.11	8.39	1.97+
		プログラム後	15.70	8.92	

注 +: p<10. *: p<.05

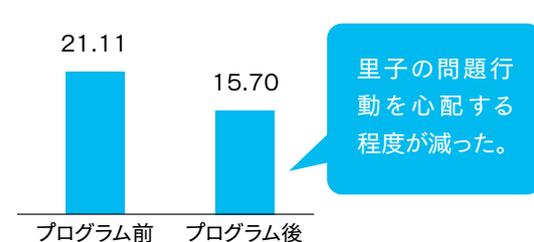
表2 SDQにおける支援ニーズごとの里子の人数 (対象の子ども)

時期	正常域	境界域	臨床域
プログラム前	7名	1名	4名
プログラム後	7名	3名	2名

QUARQ アタッチメントの質の変化



VAS 里子への心配度の変化

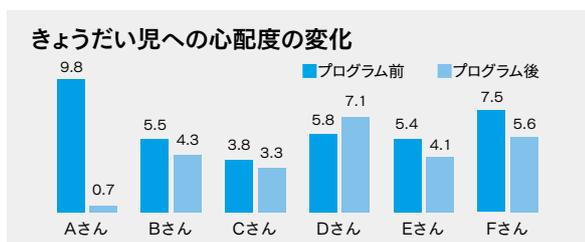


きょうだい児について

きょうだい児については、対象里親が6名、対象里子が15名であったため、今回は単純な比較検討のみ行った。

VASについて、程度の差はあるものの6名中5名の里親の心配度が減少した (図2)。SDQについては、6名の子ど

もは支援ニーズに変化なし、5名はニーズ軽減という結果であった。一方で、支援ニーズが増加した子どもも4名みられた (表3)。



(図2) 各家庭のきょうだい児VAS合計値をきょうだい児の人数で割った平均値の変化

表3 SDQ支援ニーズの変化 (きょうだい児)

プログラム前後での変化	支援ニーズ程度 (前→後)	里子の数
変化なし	正常域→正常域	3名
	境界域→境界域	2名
	臨床域→臨床域	1名
ニーズ軽減	境界域→正常域	2名
	臨床域→境界域	2名
	臨床域→正常域	1名
ニーズ増加	正常域→臨床域	2名
	境界域→臨床域	2名

ファシリテーター フォローアップ研修

各地の取り組みを支えるため、養成研修後もファシリテーターが集まり、成果や疑問を共有するフォローアップ研修を開催しました。ファシリテーターの資質向上はもとより、疑問解消や支援者同士の繋がりという観点からも有意義な機会となっています。

第一回目 2016年5月20日

- 付属資料(パワーポイントや質問紙)や参考動画の使用法の確認
- 福岡チームによるセッションのデモンストレーション

各地への導入に関しては、週1回プログラムを実施することの難しさが多く語られましたが、日本への導入にあたり、モデルに忠実に行うことの重要性を共有しました。デモンストレーションでは、里親役となった他のメンバーからファシリテーター役へ助言が行われ、実施上の留意点についても共有することができました。



第二回目 2016年9月2日

- 福岡チームによるプログラム実施報告
- 熊本チームによるセッションのデモンストレーション

各地からは、特定のスキルを取り上げたワークショップの開催、個別相談への活用等の成果が報告されました。デモンストレーションでは、準備や雰囲気づくりの工夫など、ファシリテーターの細やかな配慮について学びの多い時間となりました。



キャロラインさん(左)とキャシーさん(右)

第三回目 2017年2月27日

養成研修の講師であったキャシーさんとキャロラインさんにお越しいただき、「コンサルテーション」という形で第三回目の研修を行いました。内容は主に、各地のプログラム実施報告とお二人からの講評、プログラムに関する疑問や課題、スキルの復習でした。

お二人のファシリテーションの下、メンバー同士がディスカッションし、疑問や課題について解決策を導き出していきようなグループワークが展開されました。アテンディングとタイムアウトの復習では、ロールプレイを交えながら、より実践的に学ぶことができました。



2017年3月11日

福岡市里親のみなさまへ

特定非営利活動法人
SOS子どもの村JAPAN

フォスタリングチェンジ・プログラム参加者募集のお知らせ

仲春のみぎり、寒さもだいぶゆるんでまいりました。

さて、この度、SOS子どもの村JAPANは、福岡市こども総合相談センター里親係との共催事業として、里親さんのための“フォスタリングチェンジ・プログラム”を行います。

子どもたちは、さまざまな課題をかかえて里親さんのもとに参ります。このプログラムは、里親家庭における子どもの養育をよりよくするために、イギリスで始められたものです。里親さんが楽しく学び、家庭での実践を行っていくプログラムで、里親制度が進んでいるイギリスや欧州で高い評価を得ています。

平成28年度に、日本で初めてこのフォスタリングチェンジ・プログラムを福岡で実施いたしました。参加された里親さんからは「“こういうことがしたいんだな”という観察の目が養われた」「問題行動時のやり取りがシンプルになり、疲弊感が減った」「1週間実践し、振り返りという形がとてもよかった」とご好評をいただきました。

内側ページに詳しい内容を記載しておりますので、ご一読の上、参加をご希望の方はぜひご応募ください。

みなさまのご参加を、楽しみにお待ちしております。

(特)SOS子どもの村JAPAN
福岡市こども総合相談センター
事務局 (担当:杉村)
TEL:092-737-8655
FAX:092-737-8665
E-mail:fostering@sosjapan.org





SOS 子どもの村
JAPAN
すべての子どもに愛ある家庭を

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

子どもとの関係を改善し問題行動に対応する

フォスタリングチェンジ プログラム



参加里親さん大募集

子どもの行動に
どう対応していいのかわからない

子どもの宿題や
子どものしついで
困っている

こんな方は
ぜひご参加
ください。

子どもとの関係づくりが
難しい

他の里親の話を
聞いてみたい

日時 **2017年 5月12日～7月28日(全11回)**

毎週金曜日 10時～13時 (最終日のみ10時～15時)

場所 福岡市こども総合相談センター「えがお館」6階

受講料 無料

参加条件 幼児～小学校6年生までの子どもを養育している方

養育里親またはファミリーホームの方、全セッションに参加可能な方
事前事後の評価やプログラム実施の向上について協力を頂ける方

参加定員 6～8名

応募締切 2017年4月7日必着

この日は
昼食付きです。
また、託児のご利用
が可能です。

フォスタリングチェンジ プログラムとは

家庭養育の先進的な取り組みがなされている英国において、1999年に始められた里親支援プログラムです。子どもとよい関係を作り、問題行動に対応するための具体的な方法を週1回3時間、全12回をかけて学びます。里親が子どもの問題について考え対応する方法を身に着けるためのグループワークを中心に、里親同士の経験を共有しながら取り組みます。英国では、プログラム実施後に子どもと里親の関係性、子どもの問題行動、情緒的徴候について大きな改善が見られました。さらに新たに委託される子どもに対してスキルと自信を持って臨むことができるようになると評価されています。



**SOS 子どもの村
JAPAN**
すべての子どもに愛ある家庭を

Supported by **THE NIPPON
FOUNDATION**

プログラムの流れ

家庭訪問



プログラムの内容や、
事前アンケートについて
説明を行います。



セッションスタート!



- ① 子どもの行動を理解し記録する(5月12日)
- ② 行動への影響・先行する出来事と結果 (5月19日)
- ③ 効果的に褒める(5月26日)
- ④ 肯定的な注目(6月2日)
- ⑤ 子どもが自分の感情を調整できるよう支援する(6月9日)
- ⑥ 子どもの学習を支援する(6月16日)
- ⑦ ご褒美とご褒美表(6月23日)
- ⑧ 指示を与えることと選択的な無視(6月30日)
- ⑨ ポジティブ・ディシプリン(肯定的なしつけ)と限界の設定(7月7日)
- ⑩ タイムアウトと問題解決方略(7月14日)
- ⑪ エンディングと総括(7月28日)
肯定的変化を認め、自分自身をケアする(7月28日)

こんな雰囲気です楽しく学びます!



毎回あるテーマについて学びます。



試した方略についてメンバーと
一緒に振り返り、学びを深めます。



いろいろなアクティビティ。



プログラム修了!

修了証書授与式がありますよ!



お申し込みについては、
裏面をご参照ください。



**SOS 子どもの村
JAPAN**
すべての子どもに愛ある家庭を

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

以下の項目をご記入の上、郵送、FAXまたはE-mailでお申込みください。

フォスタリング・チェンジ参加申込書



FAX:092-737-8665

E-mail:fostering@sosjapan.org

応募締切 2017年4月7日必着

ふりがな	
氏名	
受講動機	
連絡先	住所 (〒)
	TEL / FAX
	E-mail:

※参加希望者が多い場合には、ご相談の上、決定いたします。

お問い合わせ・郵送先:(特)SOS子どもの村JAPAN事務局(担当:杉村)

TEL:092-737-8655 Email: fostering@sosjapan.org

〒810-0054 福岡市中央区今川2丁目14-3-3F

児童相談所で フォスタリングチェンジ・プログラムを 実践して

福岡市こども総合相談センター 瀬里 徳子

子どもを委託中の里親への養育支援は児童相談所の大きな課題です。当所においては従来、テーマを設定しての研修や、個別の通所や訪問等による面談の中で対応してきました。勿論、里親サロンでの養育についての悩みの共有や先輩里親の体験談を聴くことなども重要な支援メニューのひとつです。

しかし、個別の事例にどう対応していくかということではなく、もっと体系的に里親養育に役立つ研修がないかと思っている時に出会ったのが、フォスタリングチェンジ・プログラムです。ただ、1セッション3時間を12週間、毎週実施するというのはスタッフにとっても、参加する里親にとってもかなりハードルが高いと思われました。

でも、参加者を募集すると参加したいという里親が数名いらっしゃるし、プログラムをスタートすると、皆さん時間の都合をつけて毎回出席されました。時には、午後から保護者懇談会があるのでとぎりぎりまで参加し早退する方もいました。セッションを重ねる毎に参加者が自発的に発言したり、お互いで意見を出し合ったりする場面が多くなっていきました。毎週の宿題も忘れる方はいませんでした。実施にあたって、スタッフの入念な打ち合わせは必須でしたが、準備をする過程がスタッフにとっての学びの場となったのも事実です。

何よりも、社会的養育下の子どものための養育プログラムであること、ファシリテーターによるレクチャーはありますが里親のグループワークが多く盛り込まれていることで、里親が自分の養育を振り返りながら具体的な対応の方法を考えていく研修で、とても実践的であると思います。

今回実践して、里親養育に関する有効な研修であることを実感したので、今後も里親研修の中に位置づけていきたいと思っています。



実践を通してプログラムの成果と課題を考える

統括責任者 松崎 佳子

2015年度から開催していたプログラム導入のための企画委員会では、これまでの日本の里親研修は単発的なものが多く、このような継続的な研修受講の習慣がないこと、また、里親は多忙であることなどから、週1回、3時間、12セッションというプログラムが実施可能であるか、日本型の簡易版が可能であるかなどが検討されました。しかし、英国講師から、本プログラムは、この形式内容で有効であることが検証されているため、2週に1回などのアレンジしたものは本プログラムとは言えないというご指摘もあったことから、まずは、英国と同様のプログラムを実施するなかで日本での課題を検討することとしました。

従って、福岡と熊本では、基本どおりのプログラムで実施しました。その詳細は、それぞれの報告をご参照ください。参加者はそれぞれ6名の実施となりました。ファシリテーターにとっても初体験であったことやグループワークが多いことから運営としては適切な人数であったと思います。出席率は90%強と、英国の平均80数%に比べ非常に高いものでした。もともと関心の高い里親の参加であったこともあるかと思いますが、温かい雰囲気のなかで里親同士の交流、グループワークを通してモチベーションが高まったと思われました。

各セッションの進行は、数分、10分単位で決められており、この時間で話せるだろうかなどの不安もありましたが、やってみると大丈夫ということが多く、非常に実践的に練られたプログラムであることを実感しました。発言時間やプログラムの時間を守るなかで、里親の発言も回を重ねるごとにテーマに添った的確なものになっていき、相互交流も活発になってきました。里親自身が主体的になりコミュニケーション能力の向上が認められました。

また、修了後のフォローアップ研修においても、それぞれの里親が自分なりにその場に応じたスキルを使っていることが伺われ、研修内容の維持も高いことが推察されました。

日本の里親養成システムは、認定時の研修を修了すると、その後の継続研修は非常に貧弱と言わざるを得ません。本プログラムは実際に委託を受けた後、子どもとの関係構築をどのようにしていくかに特化したプログラムであり、委託後の継続研修として非常に効果の高い研修であると思われまます。学んだスキルや考え方は、他児への応用も可能です。里親養育の質の向上を図り、不調という悲しい体験を軽減することが可能ではないかと思ひます。

課題としては、まず、本プログラムの有効性を児童相談所や里親支援機関、里親にどのように啓発していくかです。大分や熊本で実施した里親研修時のワークショップはその一つの取り組みとなると思ひます。里親会の協力も欠かせません。受講のためには里親の時間確保が必要です。時期の設定や他家族や関係者の支援、託児なども考慮していく必要があります。さらに、カタカナの多い専門用語や事例の提示などを日本の生活習慣や風土に応じた親しみやすいものにしていくことも必要です。そのためにはさらに実践を積み重ね、評価をしていくことや、実践体験を共有し検討するネットワークの仕組みが必要と考ひます。

発行 2017年4月

特定非営利活動法人 SOS子どもの村JAPAN

〒810-0054 福岡市中央区今川2-14-3 サンビル3F

TEL.092-737-8655 E-mail:info@sosjapan.org

www.sosjapan.org

公益財団法人 日本財団 助成事業

Supported by
 日本
財団
THE NIPPON
FOUNDATION



SOS 子どもの村
JAPAN

NO CHILD SHOULD
GROW UP ALONE